

山行記録 穂高岳岳沢コブ尾根-辛々勝

OWCC 中川和道 20230518

持久力の限界をつきつけられた。2014 年に 14 時間だった全行程(テント発→登攀→テント着)が今回 2023 年は何と 21 時間もかかってしまった。また登るには余程の身体改造が必要だ。中川に未来はまだあるのだろうか？OWAF のみなさん、経験交流や、お知恵を貸して下さいませんか？

2023 年 5/3-5 穂高岳岳沢コブ尾根 [OWCC 中川和道+松田明裕] [奈良労山 杉川明宏 松原彰子]
5/3 0830 上高地 1130 岳沢小屋テント場着 晴 15℃無風 テント設営
5/4 0130 起床 晴-3℃弱風 0340 テント発 0604 コブ沢左俣の滝 0930 稜線に出る 15℃無風
1000 マイナーピーク懸垂 15m 1030 コブ取付き→松田リードで 15m+25m 登攀
1300 コブの頭 1340 コブの懸垂 1630 コブ尾根の頭 2030 天狗のコル
2351-2430 テント着
5/5 晴 15℃ 0816 ヘリ飛来音で起床 1130 下山開始 1500 上高地バス停
高度 小屋 2174m 滝 2635m マイナーピーク 2823m コブ 2862m 頭 3168m
天狗のコル 2807m

1. 記録

好天に恵まれそうとの天気予報に勇気づけられ、コロナ明けの初級アルパインクライミング、コブ尾根を計画した。同じ指向性をもつ奈良労山の杉川明裕さんに声をかけたら、「今回は奈良労山独自パーティーでコブ尾根を目指します」との自主独立宣言。嬉しい限りである。中川は 2023 正月に八ヶ岳大同心で体力不足にあえいだので、トレーニングを心掛け、いざ出発した。

5月3日 昨夜 5/2 に松田明博さんと待ち合わせて松田さんの車で上高地アカンダナ駐車場へ。8:30 上高地発。晴、気温 0℃、無風。岳沢を目指す。今回は「労山ココヘリ救助隊」が初動したので中川も届け出た。雪崩装備一式も背負い込み、フル装備入山の重いこと重いこと・・・。コブ尾根取付きを確認しつつ歩を進めた。11:30 岳沢小屋着。雪は少なめだ。温暖化のせいだろう。小屋のテラスで神奈川労山の M さん M 石さんに会う。杉川さんたち奈良労山 3 人パーティーも午後入山して来られ、合流。ここで彼らが装備に問題を抱えており、1 名が登攀をあきらめたことを知った。急ぎよ協議の末、OWCC 中川和道・松田明博+奈良労山杉川明裕・松原彰子の 4 人パーティーを編成することにした。彼らとは何度もパーティーを組んでおり、旧知の間柄である。ロープは OWCC パーティーの 50m2 本を共同で使うことにした。

岳沢小屋までは、何と、多くのハイカーがスニーカーで登ってこられ、春山を満喫しているようだった。中には半ズボンにスニーカーといういでたちの外国人ハイカーも多く、足元が滑るたびにあがる歓声に、見ているこちらがひやひやした。

5月4日 いよいよコブ尾根を登る。1:30 起床。晴、-3℃、無風。ヘッドランプでいざ、出発だ。コブ尾根に向かうのは、ガイドの 2 人組、山岳会の 6 人パーティーなど合計 3 パーティーくらいだった。他パーティーはコブ沢右俣を登って美しい雪のリッジ(ルート図参照)の下のピークから取付くが、我々は中川の体力不足を補うべく、コブ沢左俣をたどり、懸垂で時間がかかるマイナーピークをショートカットして、いきなりコブの真下の稜線に合流しようという作戦を立てた(遡行図ルート図参照)。

左俣を順調に進み 6:04 コブ沢の滝(遡行図・ルート図参照)を通過。そこからコブの取付きを一気に目指すつもりだったが、ここで誤算が。先行したパーティーがマイナーピークの懸垂を始め

たとたん、ガラガラと大きな人為落石が降ってきた。これでは、コブ取付きを目指すことなど出来ない。やむなく我々はマイナーピークの右肩から落ちる尾根(ルート図参照)に取付いた。ハイマツが続く尾根にはライチョウやウサギのフンが認められた。この時期のライチョウは実に流ちょうに飛行する。ついに我々はライチョウとウサギを目撃し、OWAF自然保護委員会に報告した。

9:30 ついにコブ尾根の稜線に達した(写真 1)。が、この上にはマイナーピークの懸垂 20m が

待っていた。時間をとられ、遅れるが、いたし方ない。2019年5月4日にはスノーボードを用いたが、今回2023年はピークの頭左側のハイマツに残置された2つの懸垂支点を用いて下降し(写真 2)、途中からダブルアックスに切り替えて漁の側面をたどった。時刻はすでに10:00。

いよいよ核心部コブの登攀である。先行パーティーの様子をじっくり観察したところ、どのパーティーも、コブ下端を右に回り込んだ草付きを少し登り、きれいな凹角状の岩場を突破してコブの頂稜をたどっている(ルート図参照)。我々もそれにならう。残置ハーケン3本。

10:30 松田リードで凹角状の岩に取付き(写真 3)、順調に突破。IV級くらいだ。中川はブルージック登攀で松原はタイプロック登攀で続き、杉川は通常のフォロー登攀で登った。頂稜も松田リードで 25m 伸ばす(Ⅱ-Ⅲ級、ハーケン 4 本)と突然、頂稜に出た。幅 50cm くらいで奥行 10m の水平な道が今回は雪から露出してであり、易しくてロープを要しなかった。コブの頭の懸垂点まで行き、その手前で休憩。



写真 1 コブ尾根稜線に到達した松原。



写真 2 マイナーピーク懸垂。松原と中川



写真 4 コブを懸垂する松原

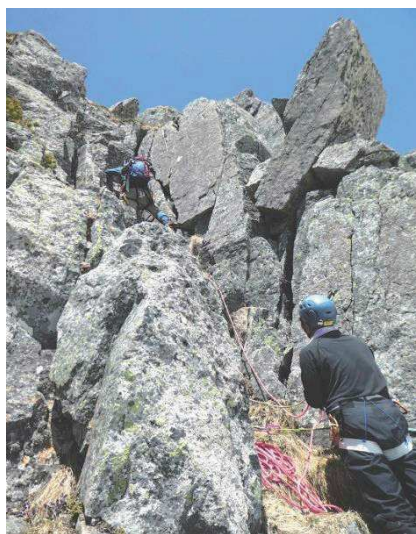


写真 3 コブの登攀 リード松田、ピレイヤー杉川。IV級の凹角を登る。

13:40 コブの懸垂。岩の出っ張りが2つあり、懸垂距離は5m+15m。垂直に下降するのでスリルがある(写真4)。

懸垂で降り立ってからコブ尾根の頭へと登り直す。毎度のことだが、この登りが何ともいやらしい。5月の日射をまともに受けてグズグズになった雪は岩との間に不安定なシュルンドだらけ(ルート図参照)。危険と隣り合わせの神経戦の登攀だ。

15:30 コブ尾根の頭の直下まで来た。ここで、何と、杉川が左足をスリップさせて滑落を始めた。雪は水たっぷりのシャーベット状なので、ピッケルのピックを打ち込むが、停まらない。「足で止めろ」などと我々は叫んだ。杉川は極めて冷静に、ついに滑落を停めた。日頃の滑落停止訓練のおかげです、と言っていたが、まさしくそのとおりであった。ホッとした。

16:30 コブ尾根の頭。日没に追い立てられ、我々は天狗の科尔へと向かった。途中でヘッドランプ点灯。20:30 天狗の科尔着。ほぼ満月の天の恵みに感謝しながら、広大な天狗沢をよたよたと下降にかかった。杉川・松原は元気に下るが、中川はよれよれである。松田に何度も待ってもらおう。23時ころ、中川はついにシャリバテ。松田にココアを沸かしてもらい、砂糖だらけにして飲んだら、少し元気になった。テント着は杉川・松原が23:30、中川・松田は、何と、24:30。中川は全行程時間が21時間にもなってしまった。がっくりである。少しお湯を沸かして砂糖水を飲み、食事はいらない、とばかりに、爆睡した。

5月5日 晴 15℃無風 8:16 ヘリコプター飛来音でたたき起こされた。ご遺体?けが人?を湖沢でピックアップしたのちに岳沢に向かいます、と通信する声を聞いたから、そのヘリらしい。

奈良労山隊はすでにテントをたたんでいて、中川の装備を昨日引き受けて下さったロープや登攀具を持って来てくれた。感謝感謝だ。OWCC2名・奈良労山3名の計5名で記念の集合写真を撮った。へとへとOWCC隊はゆっくりと撤収。11:30 下山開始。15:00 上高地バス停着。こうして我々のコブ尾根登攀はその幕を閉じた。

2. 天気

初級アルパインリーダー学校の恒例行事であったので、「ヤマテンと Mountain Weather Forecast の予報がどの程度正しかったのか」を事後点検してみよう。

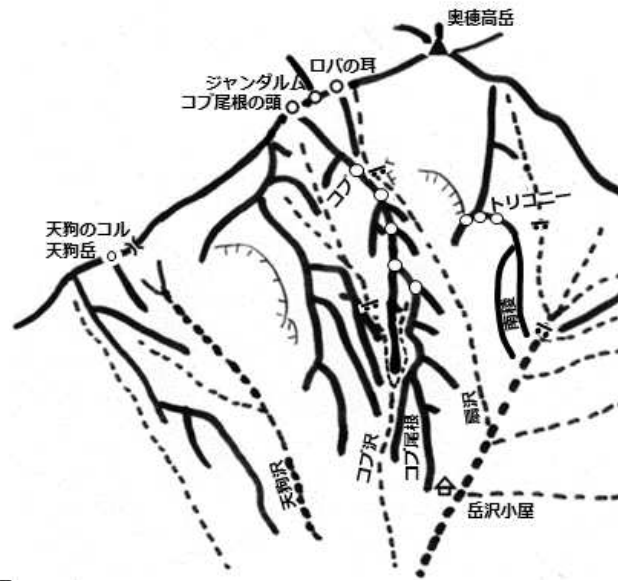
次の表に両者の予報のうち、気温と風速の一覧を示す。今回は見事な晴天の春山となったので

		5/1	5/2	5/3	5/4	5/5
ヤマテン	0:00	-4℃ 12m/s	-11℃ 18m/s	-2℃ 2m/s	-2℃ 7m/s	1℃ 5m/s
	6:00	-7 11	-10 16	-1 1	-1 4	2 4
	12:00	-5 11	-4 9	6 2	7 1	7 6
	18:00	-9 16	-4 6	1 3	3 1	4 12
Mountain Weather Forecast	AM 04-12	-5℃ 11m/s	-6℃ 15m/s	2℃ 3m/s	2℃ 2m/s	2℃ 7m/s
	PM 12-20	-6 13	-1 13	0 3	3 2	2 4
	Night20-04	-9 15	2 4	1 6	4 6	3 19
実測				8時 0℃無風	2時 -3℃無風	

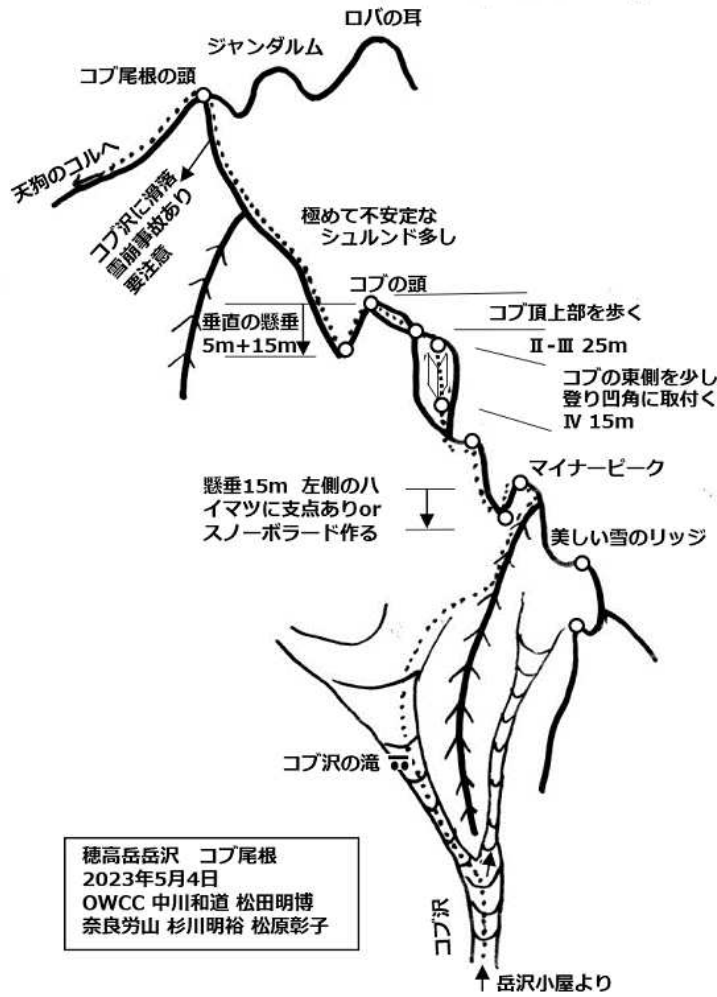
大きな論点はないが、強いて言えば、5/4 未明の実測気温-3℃はヤマテンの方が実測値に近い。

5/2 には奥明神沢で巻き込み滑落事故が発生し、2人が死亡1人が負傷した。5/1と5/2の12時ころまでは低温かつ強風で、厳しい山であったことがわかる。一方、5/4の12時ころは7℃とやたら気温が高く、雪面がシャーベット状になって滑落がおきた。日陰では予報どおり+7℃かもしれないがひなたでは15℃程度となり、気温が高いことによる危険が生じたのである。大きな教訓としたい。

3. 遊行図 コブ尾根、コブ沢の位置関係を強調して描いた。



4. ルート図



5. ルート写真 コブ尾根ルート図はこの写真をもとに作成した。

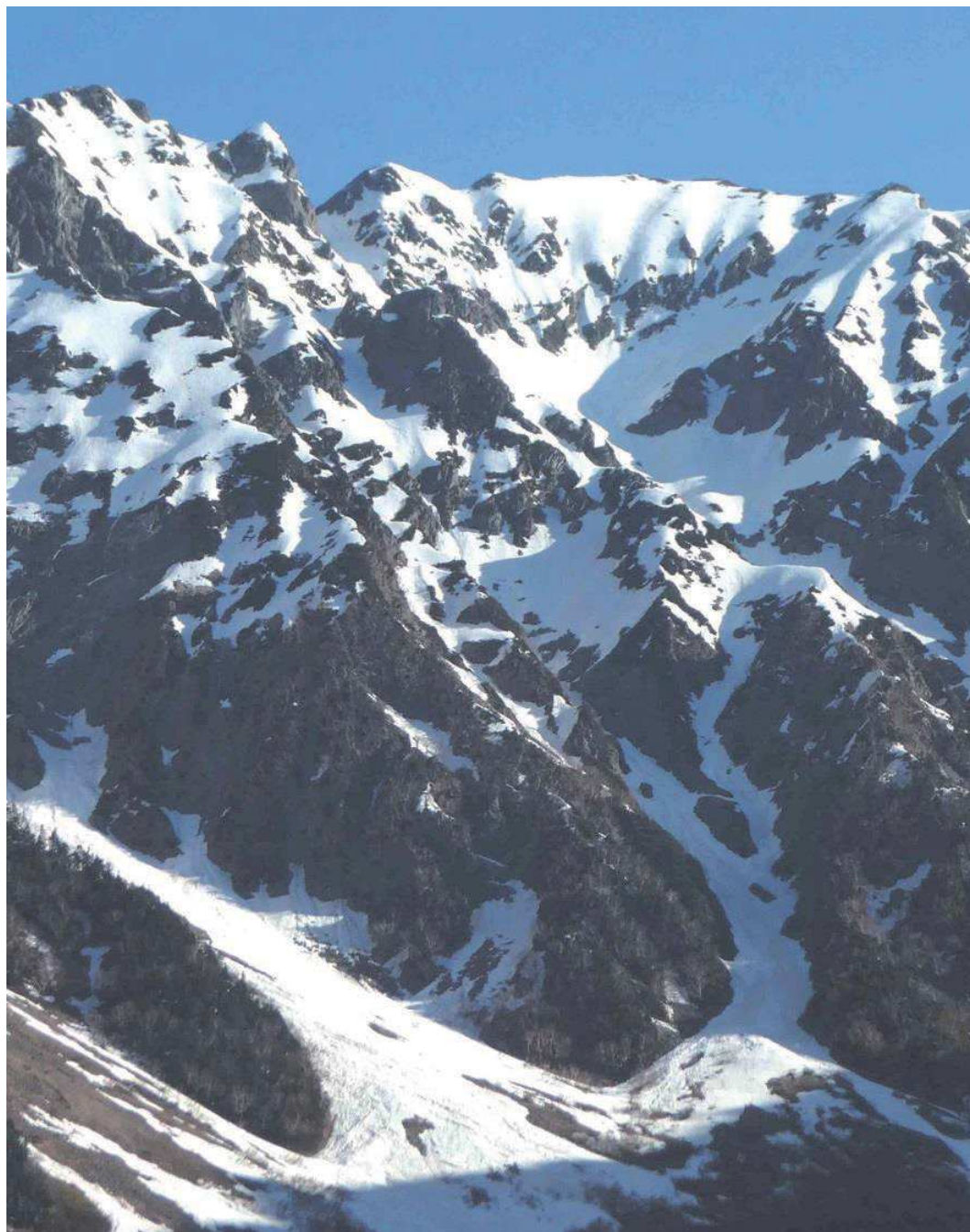


写真5 5月3日、上高地河童橋付近から見たコブ尾根。中央やや上寄りにコブが見える。

6. テクニカルノート メモなど

- (1)中川の持久力減退は目に余る状況であった。退職後の再雇用の終了、コロナ自粛による運動不足、コロナ自粛の3年間に73才という年齢に達したことなど、これまでとは異次元の持久力減退であった。異次元のトレーニングが必要な時に来ていると思われる。能勢ら[文献1]によれば、持久力の目安である最大酸素消費量は、16才頃の60mL/kg/分をピークに65才では約30と半分に低下するという。根本的な対策が必要である。OWAFのみなさん、お知恵を貸してくださいませんか？
- (2)今回ロープを使用したのは、[1]マイナーピークの懸垂、[2]コブの登攀2ピッチ15m+25m、[3]コブの登攀25mであった。コブの頂稜15mは2019年にはロープを使用した但今回は使用しないで通過可能であった。ロープは50m2本を持つと安心である。スノーバー(5本)、アルパインハーケン(8本)は使用しないで済んだ。
- (3)杉川が滑落を冷静に停めた。日頃の訓練が身を結んだものである。滑落しないよう作戦を練ることも必要であるが、やはり、人間はミスをするものだ。そのための停止技術があるのだから、いざ滑落した時にちゃんと止められるよう訓練に努める必要があることを再度痛感した。
- (4)メモ：山の現場では、コロナが落ち着いたという実感はない。岳沢小屋スタッフは、屋根の上に布団を干す際、厳重なマスクを装着して重労働をなさっておられた。また、奥明神沢の滑落事故5/2で事故者を救助した際の報道写真[文献2]では、長野県警山岳遭難救助隊はマスク装着であった。ただでさえ苦しい救助活動がさらに苦しいものになるコロナの状況は、いっさい変わっていない。登山者は自分の健康状態の把握、感染の防止にいま一層気を張り詰め自分の身は自分で守る。これこそ、登山の自由の権利に伴う登山者の義務であると再びつよく感じた。
- (5)謝辞：今回の登攀では、松田さん杉川さん松原さんに多大なご負担をおかけし、本当にお世話になりました。心より感謝いたします。

[文献1]能勢博、山本正嘉、猪熊隆之、宮内佐季子『山歩き超入門』、山と溪谷社、2023年。

[文献2]信濃毎日新聞 2023/5/10「GW 県内山岳遭難18件」